

ぼくの使命

脇坂 竜丸

お母さん、ぼくが生まれたとき、どんな気持ちだった？ ぼくが生まれて心臓病だと知ったとき、どんな思いだった？ ぼくは勇気を出して、この作文を書く。誰にも言えない気持ちを打ち明けるのだから。

ぼくは、生まれつきの心臓病。これから話すことは、母に聞いた話である。ぼくは本当は死産で生まれてくるはずだった。生まれた後も、本来なら突然死となっていた。心臓病に気付いたのは、ぼくが生後一ヶ月もしないうちだった。風邪をひき、病院に行つたところ、心臓病が発覚し、大きな病院に移され、まだ小さかったぼくは手術が出来ず、緊急処置をされた。その処置も六割は亡くなりますと宣告された。ぼくは記憶にないけれど、親せき中、とても大騒ぎだったらしい。

今でも病院には通っている。ずっと順調だったが、前回の検診で、少し悪化していると言われた。母の顔が固まった。ぼくは気付かないふりをした。そのほうが母のためになる。

小さかったぼくは手術が出来なかった。だからぼくが成長して、体力が付いたら手術をする。ぼくは知っている。その大手術がとても難しく、死んでしまうかもしれないというこ

とを……。でもぼくは、死んだりしない。弟や妹が三人いて、ぼくが助けてあげなきゃいけないから。お母さんは、ぼくが生まれた時から病院通いで大変だったろうと思う。今も小さい弟や妹がいて大変だから、ぼくが守ってあげなきゃいけないんだ。

ぼくは、今、剣道を一生懸命にやっている。今の努力は必ず実になる、と母はよく言っている。今の努力が実になり花となる。手術になる前に必ず花を咲かせてみせる。病気があるからこそ、学校では教えてくれないたくさんのことを学べたんだ。だから、ぼくはぼくのまま、ありのままの姿に感謝する。

お母さん、ぼくは手術で死んだりしないから心配しないで。たくさんの実が、これから花となるんだから。

ぼくは、本当は手術がこわい。不安で胸が張りさけそうになるときもある。けれど、ぼくには使命がある。だから、乗りこえなくてはいけないんだ。ぼくなら出来るんだ、絶対的に。

お母さん、心臓病のぼくを生んでくれて、本当にありがとう。ぼくは輝く未来に、強く歩み続けます。

評価のポイント

「がんばる」「病気に打ち勝つ」という決意が伝わってくる。思わず応援したくなった。